

的な問題、未来に対する漠然とした不安といった複雑な問題を私たちは抱えている。この殺伐とした現代を野草のように生きていくために私たちは前を向いて互いに協力し、手を取り合い、目の前の課題を一つ一つ解決することが大事なのだと、このトリエンナーレから強く感じることができた。



ユア・ブラザーズ・フィルムメイキング・グループ《宿舍》
（撮影者：伊東美秋）

ウェルカーゼミナール 秋葉原探訪レポート

国際日本学部国際文化交流学科

3年 山本拓実

国際日本学部日本文化学科

3年 長谷川天駿



ジェームズ・ウェルカー先生のゼミナールは毎年秋葉原を訪れます。このゼミナールでは日本のポップカルチャー、例えばオタク文化などにあるジェンダーを扱います。その為日本のオタク文化の中心である秋葉原は重要な場所なのです。まず秋葉原駅に集合し、秋葉原の歴史について先生から教わりました。

メイドカフェに訪れると、みんなは中々店の奥の方へと進むのを躊躇っており、前の方にいた私だけ押し出されてしまいました。日本ではオタクが受け入れられるようになってきていると聞きますが、人前でオタクらしい物へ触れようとするのは恥ずかしさを感じるのでしょうか、

メイドさんが即興で書いた猿



実際にはまだ日本ではオタク文化は恥ずかしい文化といった面が残っているのかもしれないと思いました。店内では先生にパフェなどをご馳走になりながら、メイドさんによる会話・おまじない・ダンス・チェキなど、メイドカフェらしいものを楽しみました。メイドさんがオムライスにイラストを書く際にはお客さんにリクエストを聞くのですが、その後、何も見ずにかわいい絵をケチャップを使いながら描いていて感動してしまいました。ダンスをしている時もいろいろなお客さんに視線をしっかりと送っていて、メイドさんの凄さを体感することができました。

その後は秋葉原の散策をしました。秋葉原やオタクと聞けばアニメ、漫画などそういったものを今は思い浮かべますが、訪れたラジオ会馆などにはSF・人形・モデルガンなど、以前はオタクという言葉でアニメ、漫画と一緒に思い浮かべられていたジャンルのお店が残っていました。

散策の後は最後の目的地の明治大学にある米沢嘉博記念図書館・現代マンガ図書館を訪れました。この図書館は漫画、雑誌、同人誌、それらに関する学術書など40万冊が所蔵されています。国会図書館では多数の雑誌を管理する為に背表紙をくっ付けて保存します。これによってくっ付けられた面やスタンプで隠れた部分の情報失われています。ですがこちらの図書館は雑誌をできるだけそのままの姿で保存するために、管理用のバーコードなどの情報は別紙に全て記し、状態の保護のためにビニール袋を本全体に被せるという保存が為されていました。これらから雑誌という形を大切にしているということが伝わってきました。特別に通じていただいた4階の書庫では少年ジャンプやサンデー、ちやおを始めとする数え切れないほどの雑誌が

先述した方法で保存されていました。背表紙もすっかり残っているため、例えば少年ジャンプでは先日亡くなってしまった漫画家の鳥山明先生の初連載作品「Dr. スランプ」の連載開始から終了、「ドラゴンボール」の連載開始から終了までの軌跡が背表紙から手に取るようにわかり、背表紙が貴重な情報源であることを実感しました。

私達は雑誌の中の漫画という部分だけに注目しがちですが、雑誌というメディアの形によって付随する情報も漫画とつながった大切な情報という事に気づかされました。

台湾国立中山大学との交流セミナーの開催

「黄金町フィールドワーク」

通して考える地域再生」

「観光文化コースのコース演習Ⅰ」

崔クラスの取り組み

国際日本学部 国際文化交流学科2年

江原由美・新保みくり・原沢怜佳

氏川晴仁・梅田千帆・松原穂佳・吉田礼萌

若杉日和・阿武弥春・杉原彩華・岩崎真希

坂井勝永・嶋崎結菜・鈴木里奈・増田有紗

1) はじめに

国立中山大学西湾学院社会創新大学院の夏休み日本見学クラスを履修する学生10名（社会創新大学院修士学生7名、学部生3名）と教員ら2名の12名が2024年6月22日（土）、神奈川県を訪問した。台湾の学生達は、6月19日から29日までの間、日本に滞在しながら、台湾の社会課題を解決するためのヒントを得る